R. S. C. D. S.
東京ブランチレター

NO. 53　　2001年 9月発行

AGM（年総会）へ東京ブランチからの提案

RSCDSの運営組織と会員制度の改革案（ブランチレターNO. 52掲載）について、ECとしてOption 1（東京ブランチもこの案に一票を投じました。）をAGMに提案することになり、Option 1でのSubscriptionは15ポンドと提案しています。

東京ブランチでは、運営委員会で検討の結果、8月28日付で、年会費を段階的に値上げするというAmendment （意見）をAGMへ提案しました。

これに対して、9月12日夜、HQ（本部）Elspeth Gray（Secretary/Administrator ）からFAXで、①数年に亘る値上げの提案は不適当である。②AGMは最高執行機関であり、毎年の会費について決定する権利がある。今年東京ブランチの意見が受け入れられたとしても、AGMは次年度にこの決定に縛られないと決めることができる。と伝えてきました。併せて、東京ブランチと同じ内容のAmendment が Leicester Branch から提案されているので、もし希望するならば、 Leicester Branch と東京ブランチからの共同提案をすることができるという連絡がありました。

9月16日、臨時の運営委員会を開催して、 Leicester Branch の年10ポンドにするというProposalにJoint することにし、その旨を連絡することといたしました。

経費削減の提言

また、東京ブランチでは、Amendment に、次の経費削減の提言を添付しました。

a．資料の紙質やサイズを元に戻す（Book 39 までのように）。

b．全ての資料を全員に送る必要はない。

c．資料（Bulletin、Bookなど）配付はブランチが行ない、配布費用はブランチで負担する。

d．Examinerの派遣時の航空運賃は主催ブランチが負担する。

e．ティーチャーの資格を持つ人は、その資格を維持し活動を続けるために、毎年又は

２年に１回一定の額を登録料として本部に納める。

これに対し同じFAX に（経費削減の）提案は適当な委員会に提案するのが一番いい。自分の方から連絡し、回答をお伝えすることを約束します。できるだけ早く東京ブランチの返事を知らせてください。」と連絡してきましたので、９月１６日の運営委員会で検討の結果、委員会に提案するために必要手続きをElspeth Grayにお願いすることにしました。

東海ブランチについて　――その後――

東京ブランチは、日本で最初のＲＳＣＤＳブランチとして、ＲＳＣＤＳの精神にのっとり、我が国におけるスコティッシュカントリーダンスの普及に大きな貢献をしてきました。

東京ブランチでは、東海ブランチの創立に際して、決められたエリア内で活動することを条件に同意しました。

東京ブランチは、ブランチは相互に友好関係と信頼関係を維持し、紳士協定を守り、基本的にエリア内で活動するとともに、相互のブランチに有益と考えられる活動（例えば、資格試験に関する事業等）についてはお互いに協力しながら実施することが必要であると考えています。

今回、東海ブランチが東京ブランチのエリア内でブランチクラスを実施しましたが、東京ブランチには一切連絡がありませんでしたし、東京都内に二つのブランチが存在して活動しているような錯覚をメンバーに与え、東京ブランチの維持・活動にも悪影響を及ぼす恐れがあることから容認することができないと判断し、ブランチレター52号と手紙で会員のみなさまにお知らせするとともに、東海ブランチと、本部にもその旨を連絡しました。

東京ブランチから、９月７日、本部ＧＰ委員会 MR. Alan Mairあてに送った手紙には、

- 東京ブランチは、ブランチ・クラスは、公的なものと考えていること。
- 東京ブランチのエリアは関東地方（東京及び千葉、神奈川、茨城、群馬、栃木の各県）であり、東海ブランチのエリアは、静岡、三重、愛知であること。東海ブランチのエリアは、新しいブランチを作りたい人達の長い議論の末に決まったものであること。
- ブランチが活動している中心地で、他のブランチのレギュラー・クラスを開くのは公明正大ではないこと。等の内容です。

その後、東京ブランチは、東海ブランチあてに再び抗議の手紙を出すとともに、必要があれば、東海ブランチの代表者との話し合いを申し入れることも検討しています。

９月１６日に開催されたブランチ運営委員会では、再度、本部に、エリアとブランチ・クラス等についての本部の考え方を確認したい旨、手紙を送ることとしています。

サマースクール《St. Andrew´s》

MUSICIANSコースに参加して

小谷野　千枝子（ヒースル）

２年前に、ブランチミュージッククラスに参加できたことが、私にとって４５年ぶりのヴァイオリン演奏の再スタートにつながりました。何よりも、まず、松橋さんをはじめ、その当時のスタッフに心より御礼を申し上げなくてはなりません。

今年は、ＷＥＥＫ３にはダンスクラスを、また、ＷＥＥＫ４にはＭＵＳＩＣＩＡＮＳコースにそれぞれ参加しましたが、ここでは、後者の体験について述べたいと思います。

ＲＳＣＤＳ主催の、第２回目のＭＵＳＩＣＩＡＮＳコースは、サマースクールのダンスクラスと並行して、第４週（８月５日～１２日）にもうけられました。費用は、ＵＮＩＶＥＲＳＩＴＹ　ＨＡＬＬに７泊で３０５ポンド（ＮＥＷ　ＨＡＬＬ４０９ポンド）、今回のこのコースのディレクターは、ＭＡＵＲＥＥＮ　ＲＵＴＨＥＲＦＯＲＤさんでした。

コースに先立ち、５月に１００曲近い楽譜（それも手書き）のコピーが届けられたので、２週間ほどかけてしっかり、しかも楽しく準備しました。このＭＡＵＲＥＥＮさんは、若くて、魅力的なすばらしいフィドラーで、さらにスクールのピアニストです。去年、スクールで演奏を聞いていましたが、今回、はじめてお顔とお名前が一致しました。

コース開始の前夜、昨夏、私にスペシャルレッスンをして下さったＩＡＮ　ＦＲＡＳＥＲ氏と再会できました。ご一緒していた小海さんとともに３人で合奏する機会に恵まれ、時間を忘れ、深夜まで楽しみました。

コースの定員は１６名（申し込まれる方はお早目に）。今回の参加者の内訳は、アコーディオン８名、フィドル５名（スクールミュージシャンのＳＨＥＥＡさんも参加）、ピアノ２名、フルート１名。国別に見ますと、ドイツ、オランダ各１名、日本２名、これらのほかはほとんどＵ．Ｋ．の人々だったようです。

ＤＡＶＩＤ　ＣＵＮＮＩＮＨＡＭ氏がアコーディオン、ＩＡＮ　ＦＲＡＳＥＲ氏がフィドル、また、ＭＡＵＲＥＥＮさんがピアノをおのおの指導されました。連日、朝から深夜まで、個人、グループ（フィドル、他の楽器の２グループ）の合同レッスンが行われましたが、私の個人レッスンでは、主として弓の使い方、装飾音符のつけ方、リールの弾き方

（応用編）などについて学びました。ＩＡＮさんが、ご自分のノートを破って私のために楽譜を書いて下さったのが（サイン入り）何とも印象的でした。スコティシュミュージックの場合、譜面にまったく書かれていないものを弾くのですから、たいへん難しいのです。

フィドルのグループレッスンでは、スコティシュ用の弓使いの練習曲で、速い弾き方を全員で習ったり、ストラスペイ３２ｂａｒｓの感情移入のし方などを学んだりして、数曲を弾きました。合同レッスンでは、毎朝、新しい楽譜が配られ、初見でさっと一回合奏して終了するというものでしたから、私は、ただただ参加者のレヴェルの高さに驚くばかりでした（譜面を追えない危うい人たちは、別室で練習したり、隣室で合奏に加わるなど、心得ていて、そのマナーのよさには感心させられました）。

スクールでは、毎晩、ダンシング（パーティ）が催され、金曜日にはケイリーがあります。水曜日に、木、金、土の各曜日の演奏曲の楽譜が５０～６０枚ほど配られましたので、曲のリピートをどのようにするか、打合せをしてのち、初見で４タイムズと２ｂａｒｓ合奏して終了。聞いたことのない曲のメロディーを弾くフィドルの私は、必死で、譜面から目を離せませんでした。演奏に入る前、隣のフィドラーが、（全員こけるから、だいじょうぶ！これだけアコもいるしね）と、私に大笑いさせたり、また、本番中には、ＭＡＵＲＥＥＮさんの《ＣＨＩＥＫＯのすばらしい音が聞こえる》というメッセージが、人伝に私の耳に入るなど、大感激。疲れはいっきに頑張りの意思へと変わりました。奏者は、アルバムを見たり、楽しい会話をしたりして、長丁場の演奏をこなしたのですが、すっかり気に入りました。

ラストの曲、ポルカ（ＤＥＩＬ　ＡＭＡＮＧ　ＴＨＥ　ＴＡＩＬＯＲＳ）と蛍の光（ＡＵＬＤ　ＬＡＮＧ　ＳＹＮＥ）は、楽譜なしで、いきなりＳＨＥＥＮＡさんが弾き始めたので、私もすぐに心踊らせて合わせました。怠け者で練習嫌いの私に、神は、“耳で弾ける”お恵みを下さっています。

教育実習で、クラスの伴奏のチャンスが２回ありましたが、事前に見学を申し出ました（フィドル仲間全員、演奏しなかった！）。勇気、自信は能力のうち。

ＳＨＥＥＮＡさんにコースの開催目的をお聞きしたところ（日本で、スクールのミュージシャンを育てるためと聞いていたので）、《コースに参加した人々が、クラスに戻って演奏するのを、“ＥＮＣＯＵＲＡＧＥ”》と、感動的な回答を下さいましたが、このすてきなことばは私の心に深く刻まれました。

今回、音楽演奏を通じて、実力も心も豊かな仲間に出会えたと実感します。ティーチャーズ、ミュージシャンズ、ダンサーズのすべてが、いつもあたたかい心でそれぞれのミスを支え合えた時こそ、みな、ＲＳＣＤＳのファミリーになれると信じ、ペンをおきます。

初めてのサマースクール（St.Andrew´s ）

荒井　慶子

スコティッシュカントリーダンスと出会って８年。３・４年前から是非行ってみたいと思いながらも叶わず、やっと行ける見通しがたったのが昨年末のこと。いろいろな話を聞いても実感のわかぬまま、「毎年この時期になると、吸い寄せられるようにSt.Andrew´s（サマースクール）に行くのよ」という言葉に期待をふくらませていた。

７月21日、総勢24名が修学旅行気分で成田を発つ。８時間の時差もあって、同日夕方いよいよスコットランドに到る。宿舎（ニューホール）へ向かう車窓からの景色を眺めながら念願のスコットランドに来ることが出来た喜びに浸る。限りなく続く緑の草原、遠くに見える城、湾のかけ橋Forth Bridge、家を彩る花々・・・。宿舎に到着してからも、逸る気持ちはどうにも押さえ切れず、１～２時間おきに部屋の小さな窓から外を眺め、夜明けを迎えた。昇る朝日を浴びてキラキラと輝く夜露に濡れた木々や草花と、広い敷地内に点在するオレンジ色の灯りに彩られた夜明けの風景の美しかったこと・・・。

22日、明日からのスクールに備え、Mrs.篤子クレメントの案内で各会場の確認を兼ねて市内観光。午後にはスクールの受付を済ませ、初めての参加者用の☆マークのついた名札を頂く。

23日、いよいよスタート。１限目（9:30～10:45)は、TEACHER にAlice Murphy、MUSICIANにMaureen Rutherfordを迎えてのカントリーダンスのクラスに参加。日本人５名を含む30名程の生徒の国籍は実にさまざまながら、ダンスを通じて心は一つに。とても楽しく素晴らしいクラスでした。２限目(11:30～12:30)はレディーススステップのクラスに参加。TEACHER はAtsuko Clement、MUSICIANはMaureen Rutherford。生徒は18名（外国人５名）。曲名はA Garland of Heather。私の大好きなダンスです。レッスン初日から全員でデモをするという一つの目標に向かい、毎日練習に励み、本番に臨むことができました。

そしてもう一つ。私にとって晴天の霹靂、夜のパーティー会場でMiss Martin よりデモのお話を頂いたのです！あまりにも突然の出来事だったので、言葉がうまく出ずに、篤子さんに「どうするの？」と促されて初めて返事をしたように記憶しています。

24日、いよいよ今日からクラスレッスンの他に、２時から１時間程のデモの練習（当日を含む３日間）がスタート。曲名はAULD LANG SYNE(S) とCHARMER(J)。Miss Martin が一人一人を紹介し、パートナーを決めて下さり、ウォークスルー、とここまでが５、６分足らずのあっという間の出来事。その後、素晴らしいピアノに合わせて踊り、注意箇所の指摘を受け、確認し、また繰り返し踊る。時間の経過がとても早く感じました。

しかし連日とても緊張していたはずなのに、初めて出会った外国の方々と、ピアノと共

に踊り始めると、自然と笑みがこぼれ、旧知の間柄のような信頼感・・・。でも不思議な事はないのですね。チームの方々とパートナーに支えて頂き、言葉は交わさなくても微笑みを交わし、手を取り合い、素晴らしい音楽に合わせて踊る・・・これぞスコティッシュスピリッツ！

当日のヤンガーホールでは予想以上の緊張（そもそも人一倍あがり性である）で、手は震え、口は渇き、どうなってしまうのだろうと思いましたが、ピアノの音と共に心も体も軽やかに感じられ、それまでの緊張がうそのように、伸々と踊ったように思います。

私にとってこのような素晴らしい機会と経験を与えて下さったLesley Martin とAtsuko Clement に心から感謝します。チーム、クラスメイトの皆さん、本当にありがとう。是非また来年もお会いしたいですね、その時期になったら吸い寄せられるように・・・。

年々充実するサマ・スクールと、Music Courseに拍手

松橋　順子

今年のSt.Andrewsのサマ・スクールには、日本から（東京、東海、埼玉ブランチメンバーの他にアフィリエイテッドグループのツァーも含めて）80人近いメンバーが訪れた。観光とダンス、サマ・スクールと観光、サマ・スクールのみ、Teacher´s training Courseに、Music Courseに、Teaching Skill Course に、と参加した内容は人それぞれだが、どの人も皆充分に「Scotland」を楽しんだと思う。

私自身、スクールの整理をし終えてみると、……ここ数年、参加者に提出を求めているスクールの評価表（スクール全般と各クラスについてと二通り）に依って、サマ・スクール実行委員会で反省や検討がなされ、前向きな意見を参考に、実行出来るものを取り入れて、プログラムが組み立てられ、今夏のサマ・スクールは特別、著しく充実していたなぁと感じたのだ。

Class は、第１セッション9.30～ 10.45、tea timeをはさんで第２セッション11.30 ～12.30 （第２セッションは、そのままCountry Dance の人と、Men´s Highland Dance、Ladies Step Dance に分れる）で、昼食となるから、一週間参加すれば評価表は３枚、２週間参加すれば、全体については１枚としても、クラスについては４枚で計５枚は書くことになる。（回収率は何％か私は知らない。）

サマ・スクールのクラスは各自の能力別に

自己申告で、

第１セッション（9.30～ 10.45）

Ａ　のIntroductory　から

Ｂ１　Ｂ２　Intermediate（２クラス）

Ｃ１　Ｃ２　Advanced　　（２クラス）

Ｄ１　Ｄ２　Very Advanced （２クラス）（Preliminary を含む）

Ｅ　　Very Advanced とFull teacher certifecateを持っているSeniorのクラス

Ｆ１　Ｆ２　Fully Certifecated（２クラス）

の１０ Classに分けられ、St.Andrewsの街の１０ヶ所のホールで行われる。

第２セッション（11.30 ～12.30 ）は、

Ａ、Ｂ、Ｃはそのまま、　Ｄ１ Ｄ２ は合同、　ＥとＦ１ Ｆ２ が合同、

そのうち、Ｄ、Ｅ、ＦからLadies Step Dance に２クラス、

Men´s Highlandに２クラス　　計１２クラスに分かれて、１２会場で行われ、

teacher と音楽担当者もそれぞれ替わる。（teacher とMusicianの層の厚さを実感）

午前のセッションは、その他に

○　Teacher´s training Course ２週間

○　Music Course　１週間

○　Teaching Skill Course　　１週間

が行われているのだ。

各クラスの会場の遠近の均等な配分、担当教師と音楽担当の組み合わせ等、午前中のクラスの事だけでも大変であろうと思うのに、更に、午後 2:30 ～4:00には

Ａ、Ｂ Class only のThrough of Social Dancing

Ｃ１ 、Ｃ２ Class only のTechnique Analiysis のcorrectionが土曜日を除く５日間行われた。

又、午後4:30～5:30には

○　Verry Advance technique

　　－very high level of performance

○　Intro Ladies Step Dance

○　Intro Men´s Highland

○　Quadrilles　　○　Music Talk

○　Ballroom Social Dancing

○　Talk choreography

が毎日一つずつ行われ　金曜日には　はじめての

○ Dancing Proficiency Test、 そして土曜日には すっかり名物になった

○ Dancing in the Street がある。 そして、

又、偶数 Week の水曜日は、Training Course の Writing test、木、金と Dancing 、teachingのtestが行われる。

更に事務局は、午前 9時～10時、 2時～ 5時に開かれ、スクールShopは毎日 2時～4.30に開設されて、事務局員と手のあいているteacher 達が交替でshopの係をするのである。以前は、それに加えて午前、午後のお茶の準備（ユニバーシティーホールのみ）とサーヴィスがあったが、一昨年からtea Machine が設置されて、わずかではあるが手間がはぶかれた。

数年前のスクールは、午後のオプショナル・プログラムは午後4.30～5.30だけだったが、2.30～4.00のＡ、Ｂ only Social Dance programのre cupが加わり、更に、今年はＣ1 、Ｃ2 onlyのTechnique Analysisのcorrectionが増えた。 又、

Dancing Proficiency Testは、今回はじめての試み。

Reel３、Jig ３、Strathspey３の９曲 課題曲が定められ、その中に在る１４Formationのうち、Examinerに言われたものを取り出してデモンストレーションに、１６小節を練習する技術（方法）のデモンストレーション、又、Stepについても、前進、後退、方向を替える時の足の運び、踏み替えのテクニック等 ２４項目に亘ってチェックする、大変高度な内容が盛り込まれ、このTestをやってみようと思うなら、例え Social Dance の場といえども決して気を抜かず、いつでも、どこでも自分のStepや踊りに対して注意を払っていなければ受けられない……と云うことがわかる。

以上の様なプログラムも加わってR.S.C.D.S.の高名な teacher達は殆ど休息する時間なし。（他にSocial DanceのＭＣもしなければならない）

そして、更に、今回のスクールで特筆するべきことは“Music Course”の成果ではないだろうか。（詳しくは、小谷野さんのリポートをどうぞ）

ピアニスト、フィドラー、アコーディオニスト（一番多いように見受けられた）、フルーティスト、で２２名はいたと思う。（東京ブランチから小谷野さんと小海さんが参加されていた）

Week４の木曜日、Common Room でのソーシャルダンスのプログラム全曲をMusic Courseのメンバーが弾いて、ヤンガーホールのticketを手に出来なかった人達がCommon Room で踊ったのだ。

「Fiddle & Accordion Orchestra」と云いたい位 見事なアンサンブルで、リズム、テンポもしっかりと演奏して、勉強の成果を見せて下さった。その夜を練習台として、サマ・

スクール最後の土曜日の夜、ヤンガーホールでのソーシャルダンスのプログラムをMusic Courseの皆さんが演奏して、踊る人も演奏する人も一体となり、サマ・スクールに参加した歓びを満喫した。そこには、他に頼んで演奏して貰っているBandの音とは違う何か…。同じメンバーで、ダンサーで…、が音を作っていると云う不思議な安心感、親近感があったのではないか……と思う。（私は木曜日の夜にそれを実感した。）だから、Music Courseが毎年行われ、発展して、Summer school の時だけR.S.C.D.S.の Orchestraが出来て、Courseの最終日に必らず演奏して、皆で踊ってスクール終了……と、云う事が恒例となりますように願って止まない。

音楽をする人が音を楽しみ　自分の為にだけでなく踊る仲間に自分の力を提供して喜ばれるのを歓ぶ演奏ほど素晴らしいものはないと私は思う。踊る人は勿論、演奏してくれる人に感謝し、その音を楽しみ踊るのだから両方の一体感が生れて、その場は“幸福”以外の何ものでもない。

－１９７６年はじめてスクールに参加してから今回で１９回目の参加でした。２５年を経て８０名もの日本人がScotlandを訪れるのは夢のようでもあり、当然…という気もして、感無量です。－

東京ブランチのご支援・ご協力に感謝して

埼玉ブランチの設立については、既に東京ブランチの「レター」や「会報」等を通じてご理解頂いていると思いますが、正式に本部の承認を得た現在、改めて経過の概略とその意図するところをご報告させていただきます。

2000年 6月　埼玉県内のＳＣＤグループ有志を中心に、発起人会を結成し「埼玉ブランチ」設立に向けた活動を開始しました。
これは、地域に密着をしたブランチ活動を展開することを主目的にし、ＳＣＤ愛好サークル・会員の数も多く、又　ソサエティの公認資格者も増えた事により、設立のための条件の整った埼玉がまずは先鞭をつけ、将来的には日本各地にブランチが設立されることを願ってのことでした。

2001年 3月には設立総会と記念のパーティーを開催するところまで漕ぎつけ、同 5月には

ＲＳＣＤＳ本部の正式承認を得ることが出来ました。

この間…発起人会結成時から現在に至るまで…東京ブランチの終始変わらぬご理解・ご協力に、埼玉ブランチを代表して厚く御礼申し上げます。
特にブランチ役員の方々には色々な場面でご指導・ご支援を頂き、大変お世話になりました。この場を借りて重ねて御礼申し上げます。
9月22日（土）には正式承認を記念したパーティーを開催しましたところ、東京ブランチの会員の方々も多数参加して頂き大変楽しい会になりました。
近藤チェアマンからは温かい励ましのお言葉を頂くと共に、東京ブランチから多額のお祝い金を頂戴致しました。
大変有難うございました。今後の活動の中で有効に使わせて頂きます。

東京と埼玉　地理的にも隣接しており、メンバーの多くは両方の会員でもありますので、時には合同の行事も企画する等お互いに協力して友好的関係をさらに深めて行きたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願い致します。

ＲＳＣＤＳ　埼玉ブランチ
チェアマン　渡辺　正昭

紹介　ボストン地区のカントリーダンス
――スコティシ＆イングリッシダンス講習会――
パインウッズキャンプ　7月2～6日，２００１

池間　博之

右のＰＲのようにスコティシ・イングリッシダンス、４泊講習が18年前から開かれています。主催者はＲＳＣＤＳ協会ボストンブランチと米国カントリーダンス協会ボストンセンターです。

この行事がきっかけで米国東部各州でスコティシとイングリッシダンス愛好家による、パーティ、ワークショップ、合宿が開かれるようになってきました。今回参加することができまて

今後のブランチ活動にも参考になると感じましたので概要を紹介いたします。

1．何故スコティシとイングリッシダンスの合同行事が行なわれるのですか

ボストン地区は伝統的にスコティッシ・イングリッシダンスが盛んで別々の組織で活動してきましたがカントリーダンスについては双方のパーティ、合宿に集まるかなりの顔ぶれが共通、また指導者にもスコティシとイングリッシを専門に教える人が多いこともあって両組織が合同の事業として企画運営されて今日に至っています。もともとカントリーダンスの歴史構造が同一なので愛好者にとって容易に双方がいっしょに楽しめるようになっています。

2．プログラムはどのようにすすめられますか

・スコティシは　ハイランド、女子ステップ、ケイリー、カントリーダンス（初、上級）

・イングリッシはモリス、ソード、クロッグ、コロニー、カントリーダンス（初、上級）

特別プロは夕刻、メイポール、パラソルパレード、マッドティパーティなど

夜 8時から11時までパーティは大ホールで初日の歓迎パーティ、フォークティル、米国独立記念舞踏会、タックザハイロードと続きます。全員参加のカントリーダンスとデモ

歓迎パーティのプログラム　（どれがスコティシで何曲踊れますか）

Indian Prince	サークルミクサー	Handel with Care	2C.set.
Mulbury Garden	L.W. duple minor	Fast Packet	I.W. hornpipe
Easter Thursday	〃　〃　〃	Sally in our Alley	I.W. duple minor
Long Pond Reel	R-32-3C.	Water of Fleet	J-32-4C.
Housemouse	J-32-3C.	Kildrummy Castle	S-64-4C.
Pinewood Two-Step	M-2C round the Room	High Desert C.S.T.	R-32-3C.
休憩　デモンストレーション他		Waltz	

この後11時30分より会場を移して“アフターパーティ”が延々深夜まで続きます。

3．会費はいくらですか、申し込み方法は

会費は４泊５日（実質活動は３日半）ＵＳ 265ドル－約32,000円－毎年１月に日程が発表され 3月から先着順（ 120名）に受付が始まり予約金50ドル、定員に達すると待機リストに載ります。－過去に男女別、遠距離者、参加回数など考慮したことがあるがいずれも問題があって現状で固定－また、Come and Stay Longer！の見出しで

6月29～ 7月 4日　米独立記念イングリッシD．（米コントラ、スクュエア　カントリー）

7月 4～ 9日　スコティシ・イングリッシD．

7月 9～13日　スコティシD．第Ⅰ期　　7月13～17日　スコティシD．第Ⅱ期

この期間連続参加者のために同一キャビンに滞在できるよう便宜が計られます。また、

スコティシは参加者が多く２回に増やしたがそれでも締切りが早く断られる人が多い。

４．パインウッズキャンプ場についてお知らせください

ボストンの東約 100キロ、プリモスに隣接（メイフラワー号でイギリス人が1620年到着）した松林、24エーカー、ロング池、ラウンド池と呼ぶ２つの湖の間の小高い丘に点在する50棟余りのロッヂ、キャビン……これらの建物は　ペトロネラ、レスト＆ビーサンクフル、シハリオンなどダンス名がつき、大ホールはＣ＃（シーシャープ、英国ダンス協会創立者セシル　シャープの意）と呼ばれミリガン女史も滞在指導しています。キャンプ場は1930年代に開設され、その後、イングリッシ協会とボストンブランチの開設があって他舞踊団体と協力して年間利用日数が増加、ボストン　フォークアートセンター結成以来、キャンプは法人組織として会員、団体が年間を通して効率的に利用されています。

５．その他　講師陣は英本国と国内から６名（イングリッシ・スコティシ各３名）音楽陣も６名（ピアノ、コンサチーナ、フルート、ハープシコード、フィドル、クラリネット、うち２名、エルケとテリーは訪日演奏）、最終日の昼食後サイレントオークションがあり、寄贈品が入札され高額入札者はキャンプ基金に納入します。ストアには資料、ＣＤ、テープ、図書、マーク入りのバッグや土産品が並びます。ＴＶ、電話なしの不便は初めから特典と受けとり、日常の炊事、洗濯、育児教育から完全に離れてダンスに打ちこめる喜びを堪能します。　会員の皆様で海外サマースクール候補地としてボストンのスコティシ＆イングリッシダンスはいかがでしょうか。その他にニューヨーク、モントリオール、オタワ、トロント、ナイアガラ、シカゴを加えて計画してください。

東京ブランチ新春パーティ（仮称）の予告

日　時：２００２．１．５．（土）ＰＭ

会　場：牛込箪笥（うしごめたんす）区民ホール

交　通：ＪＲ（中央線・総武線）飯田橋駅下車、
営団地下鉄（有楽町線、南北線）飯田橋駅下車、
営団地下鉄（東西線）神楽坂（かぐらざか）駅下車、
都営地下鉄（大江戸線）牛込神楽坂（うしごめかぐらざか）駅下車

東京ブランチ合宿研修会の予告

日　時：２００２．２．１０（日）．１１（月、祝）　詳細は次号に掲載します。

ＲＳＣＤＳ（本部）への寄付について（予告）

ブランチ総会において賛成が得られ、また、寄付の金額を多くするための提案があったので、それを実現するために、ブランチ新春パーティ（仮称）、ブランチ合宿等で寄付を募集する予定です。行事終了後にとりまとめて、本部あてに寄付（Gift and Donation）を送りたいと考えております。その節には、ご協力をお願いします。

ブランチクラスのお知らせ

◎レディース・ステップ・ダンスが、クラス２－インターミディエートに移りました。

レディース・ステップ・ダンスは、クラス１（アドヴァンス）が始まる前に行なっていましたが、クラス２に移り、新たにスタートしました。月に１回、主に第２土曜日。参加費は、クラス１の時と同様、３００円です。

◎ブランチ・クラス（クラス１－アドバンス、クラス２－インターミディエート、クラス３－ビギナーズ）は、前回お知らせのとおり、エリア内の会員及びＳＣＤサークルにお送りしています。エリア外の会員でお知らせを希望の方はセクレタリまでご連絡ください。

なお、ブランチクラスの会場の確保は、グループの協力をいただいておりますので、会場には絶対に問い合わせをしないでください。不明の点は、前日までにセクレタリまでお問い合わせください。

初の試みとして、E-mailで44名の会員に送りました。

２００１年度　会報１８号　訂正

次のように追加訂正させていただきます。

p.27　**ＲＳＣＤＳ資格所有者**（Preliminary Test合格）へ追加

山田　とし子　　2001.8　St.Andrews

p.34　**Scottish Country Dance Groups in Japan-2001**

No.48 スコティッシュ・ブルーベル・クラブ東海　　住所　常磐町→常盤町

2001年度　ＲＳＣＤＳ東京ブランチ会員名簿

p.39　No. 37　　市川　洋子　　王善寺→王禅寺

p.40　No. 81　　小倉　羊之輔　　倉を入れる

p.44　No.217　　高瀬　みち子　　植野町→上植野町

p.48 最後　　Atsuko Clement　Queentberry → Queensberry

p.48（新入会員）佐藤　治子　950-0993　新潟市上所中 3-4-19　Tel: 025-285-1801

告知板

◎東京スコティッシュ・カントリーダンス　ミュージッククラブ

日　時：　9月28日（金）　PM1：00～5：00

会　場：　武蔵野市民文化会館（第3練習室）

　　中央線　三鷹駅下車　徒歩13分

講　師：　服部　雅好氏

曲　名：　The Nut(Jig), Byron Strathspey(Strathspey), The Triumph(Reel)

　　次回　12月7日（金）PM1：00～5：00

　　武蔵野市民文化会館（第1練習室）

問合わせ　連絡先　　喜多　眞由美　TEL. FAX　03－3790－3836

RSCDS東京ブランチレター

No. 53　　2001.9.23

編集責任者：佐　藤　雅　紀

336-0015　さいたま市太田窪 2000

TEL. FAX: 048-885-1894

発　　行：RSCDS東京ブランチ

吉　澤　敦　子

300-0841　土浦市中 1319-11

TEL. FAX: 0298-41-0767

E-mail:st6a-yszw@asahi-net.or.jp

次回は、12月中旬発行の予定。